



巡礼その五十六 北海道

2022年 6月6日

アイヌ文化に興味を持ち、北海道へ行くことにしました。北海道は石造物がほとんどないので興味はあまりありません。今まで、スキーや友人の結婚式で札幌やニセコには数回行きました。もちろんジンギスカンは外せませんので一日1食、多い時で2食ジンギスカンを食べていました。アイヌに関する知識はほとんどないのでまず映画「アイヌモシリ」を見て、ユーチューブでアイヌに関するものは一応全て見ました。本も数冊読んで予定を立てます。アイヌに関連のあるところは平取町と白老町、そして阿寒湖と旭川などです。今回は新千歳空港へ行って平取町と白老町を訪れることにしました。平取町の二風谷はほとんどの住民の方がアイヌです。ここからアイヌ文化が発信されています。白老町もアイヌ文化の発信地でやっと政府は重い腰を上げ、ここに国立アイヌ民族博物館を含むウポポイ民族共生象徴空間を作りました。ここでアイヌに関するいろいろなプログラムを楽しみながら学ぶことができます。平取町には平取温泉おいしい宿「湯から」があり、白老町にはウポポイに隣接して1月にできたばかりの「界ポロト」があります。ここを予約して2泊3日の旅です。当日は4時30分起床して車で羽田へ行きます。今回は何回もシュミレーションしたのでスムーズにB2駐車場へ行けました。いつものヨシカミのカツサンドを買って6:40発のJALで出発です。新千歳空港はとても大きく綺麗でレンタカーのカウンターを探すのが大変です。今回はスズキレンタカーで車種はクロスビーです。まずは平取町にある「芽生すずらん群生地」を目指します。この時期しか見ることはできません。東京は雨でしたがこちらは薄曇りです。温度は東京22度、ここは12度です。6月は新緑が美しい季節です。本土とは樹木が違います。こちらの樹はまっすぐ綺麗に伸びます。途中やけに馬の牧場が多いと思ったら日高町でした。ここで競走馬が育ちます。この辺は普通の道でもほとんど信号がなく、走っている車もあまりいません。ところどころ水田もあります。一時間を過ぎて平取町に入りました。ここから目的地まではまだ20km以上あります。今日のメインの二風谷を通り過ぎ30分ほど沙流川沿い

に山の中に入って行くと芽生の村に入り、周りはほとんどが牧場です。その先に「芽生すずらん群生地」がありました。車を停めて中に入ろうとするとゲートが半分閉まっています。なんと開園は昨日まででした。係りの人がいたのでお願いして入り口の周りだけ見せてもらいました。なんとここに一步入った瞬間にスズランの香りに満たされます。こんなに強烈に匂うとは思いませんでした。まるで誰かが香水をつけているようです。目を下に落とすとあの可愛いスズランが無限に咲き誇っています。背が低く、花が下向きに下がっているので腰を落とさないとはよく見えません。ここでスズランが見られる期間は16日間しかないのです。今年は開花が遅く今が満開です。とてもラッキーでした。すぐそばに「アシクネ チノミシリ ミンタラ」というアイヌの祈りの対象となる聖地が見える場所がありました。こういう場所が所々にあります。少し先には「オキクルミのチャシ及ムイノカニ」という場所がありました。二風谷まで戻ったらお昼になっていたのでドライブイン「ユーカラ」でカレー、妻は行者ニンニク味噌ラーメン（絶品）を食べました。まずは二風谷ダムへ行きます。建設に際し水没予定地に住むアイヌ民族との軋轢がダム建設差し止め訴訟にまで発展、アイヌ民族の先住性を問う契機となったダム事業として知られています。この事件でアイヌ民族を国の機関としては初めて先住民族として認めました。これに尽力したのが萱野茂と貝澤正です。ダムは沙流川にかかる並んだ住宅のようです。すぐそばには巨大なオキクルミ像があります。アイヌの国土創造神で新しい国土の主として人間界(北海道沙流郡平取町)に降りたといわれています。旧マンロー邸は英国人考古学・人類学者のニール・ゴードン・マンロー博士の住宅兼病院で記念館として保存され、現在は北海道大学へ寄贈されています。中には入れませんがとても趣のある建物です。いよいよ二風谷コタンにある平取町立二風谷アイヌ文化博物館へ行きます。ここには多くのチセ

(家)が復元され、チセではアイヌ工芸作家たちが実演をしています。二風谷アイヌ文化博物館はモダンな建物で萱野茂が収集したアイヌ文化の展示物がたくさんあります。入場券が萱野茂二風谷アイヌ資料館と共通なのでそちらに行きます。ここはアイヌ文化博物館とは対照的でなぜかホッとして心が安らぎます。ほとんどのものがアイヌ文化博物館に行ったようです。ここには萱野茂の書斎が再現され、彼が収集した海外の先住民族の文化があります。沙流川歴史館とアイヌ工芸伝承館「ウレシパ」は休みでした。沙流川と額平川の分岐点はアイヌの聖地でそこを見に行きました。3時を過ぎたので平取温泉おいしい宿「湯から」へチェックイン。部屋には露天風呂もついています。まずは付属の日帰り温泉へ行きます。サウナがあるので2回ほど入り、露天風呂に浸かります。とても良い温泉でそよ風が心地良い。夕食は6時に食堂へ行きます。あらかじめステーキコースを予約してあります。まずは白身魚のカルパッチョがラ

ディッシュ、ミニトマト、パプリカ、キュウリ、紫キャベツなどとともに出てくる。魚も野菜もとても美味しい。次はグリーンサラダでスモークしたチーズのドレッシング（絶品）で食べます。メインは「びらとり牛」の150gのステーキです。まずは肉を持ってきて見せてくれます。サシがたくさん入っていてA5の最高級の美味しそうな肉です。「びらとり牛」は北海道では有名で、この街で力を入れているブランド牛だそうです。ミディアムレアをお願いします。やがて出てきたステーキは嬉しいことに大好きな牛の鉄板に乗っています。ステーキはこれである。醤油とニンニク醤油、塩、レモン、山ワサビが出て来ます。店員の若いお兄さんにどの食べ方が美味しいか聞くと、山わさびに醤油だそうです。まずはそれで食べてみます。絶品である。塩も、ニンニク醤油も山ワサビでとても美味しくなります。おそろべし「びらとり牛」。さらに嬉しいのがライスと一緒にコンソメスープが出てくることです。味噌汁感覚でとても良い。最後はトマトのババロアが出てきます。平取町はトマトの一大産地なので。大満足で部屋に戻り備え付けのコーヒー豆を挽いて、ドリップで飲みます。2杯飲む。その後部屋の露天風呂に入り空を見ると、ピンクとブルーに染まってとても綺麗でした。空気が爽やかでとてもいい気持ちです。9時に寝る。

6月7日

4時に部屋の露天風呂に入り、その後5時30分に大浴場へ行く。7時30分に朝食。オーソドックスで良い。9時出発、苫小牧を通り白老町を目指します。途中、道沿いに馬頭観音石仏を見つけ、嬉しくなり写します。苫小牧は大きな街で道路は片側4車線もあります。1時間10分で白老町のウポポイに到着。事前にチケットは購入済みです。駐車場から入り口までカンカン（いざないの回廊）という長いアプローチを歩く。中は美しいポロト湖を中心にその周りにいろいろな施設が点在しています。入園するとすぐに「体験交流ホール」で伝統芸能の上演がありました。ここでアイヌの踊り、歌、語りを見る。生で見ると迫力があり感動しました。ここを出て湖に沿って伝統的コタンへ向かいます。対岸には今夜の宿「界ポロト」の特異な建物が見えます。伝統的コタンでは弓矢を射ったり、語りを聞いたりできます。その後「体験交流ホール」に戻り、アイヌに伝わる物語のアニメを見ます。お昼になったのでここにある「アルハルランナ」というレストランでラム肉のローストを食べる予定でしたが、満員で諦めます。あまりお腹が減っていないので昼食は抜きです。いよいよ国立アイヌ民族博物館へ行きます。とてもモダンな建物ですが、展示物が平取町立二風谷アイヌ文化博物館と比べると貧弱です。とても興味があったのはイヨマンテで捧げられるクマ（剥製）の装飾でした。ショップでお土産を買っ

て駐車場へ戻ります。最後に近くの山の上にある慰霊施設へ行きます。慰霊施設は過去に発掘・収集され、全国各地の大学において保管されていたアイヌ民族の遺骨・副葬品のうち、直ちに返還できないものをここに集めています。国がアイヌの遺骨などに対し尊厳ある慰霊を行わなかった歴史を踏まえ、この施設を作りました。海が見渡せるとても良い場所です。手をあわせ、「界ポロト」に向かいます。1月に出来たばかりで、ポロト湖の自然を生かし建物の中には、いたるところに白樺の木が使われています。部屋は最上階の4階で正面には壁一面に、はめ殺しの窓があり、ポロト湖と山々が素晴らしい景色を織りなします。風呂も窓が全開でき、源泉掛け流しです。まずはここの売りである大浴場「さんかくの湯」に行きます。まだ誰もいません。入ると暗い洞窟のような設計で横の三角のところから露天にでます。暗い洞窟からいきなり明るいポロト湖です。しかもインフィニティ風呂で湖との一体感を得られます。決して大きくはなく、5人で一杯ですがとてもくつろげる設計です。泉質は赤茶色の透明なモール温泉です。これも体に優しく気持ちが良い。温度は40度ぐらいでいつまでも入って要られます。ベストに入る露天風呂です。夕食の前に「界」のプログラムで「イケマと花香の魔除けづくり」があり、申し込みました。アイヌ民族が悪いものを遠ざけるとして身に着けてきた植物「イケマ」と北海道の数種類のハーブを組み合わせ、オリジナルの魔除けを作る体験です。係りの人が丁寧に教えてくれ、無事完成です。夕食の時間になりレストランへ行く。一番だったので一番奥の景色がとても良い個室に案内されました。しかし、足元がとても寒かった。「界」のように新しい施設は若いスタッフがキビキビ対応する。それはそれで気持ちが良いのであるが、我々は老舗旅館のベテランの仲居さんの付かず離れずの応が好きだ。料理はとても美味しい。特に気に入ったのが地元の陶芸家の器を使用し、クマさんがいたるところに付けてくる。途中若い女性が来て挨拶をしていきました。彼女は支配人でした。いかにも「界」らしい。部屋に戻りコーヒーを飲み、また露天風呂へ行きます。星を見るためです。部屋の露天風呂にも入ります。窓を全開にすると心地よい風が入ってきて露天風呂のようです。9時半には寝る。

6月8日

露天風呂で星をみる為に12時20分に起きて、露天風呂へ行きます。誰もいない。水面のモヤと温泉の湯けむりで幻想的である。上空には星が出ていました。部屋に戻り、また寝る。5時に起床して部屋の風呂に入る。外はもう完全に明るい。窓を全開にしてゆっくり浸かっている。6時半に最後の風呂に入ります。7時半朝食。レストランへ。朝食は普通であるが、カスベ（エイ）という魚の西京漬が美味しかった。8時30分出発、まずは支笏湖を目指します。

林の中の素敵な道を40分ぐらい登って行きます。9時過ぎに着いてしまいました。温度は9度で寒い。観光客はほとんどいません。予定は観光船に乗ることだけで、出向までに30分ほどあるので観光案内所へ行きます。ここには剥製がいっぱい展示してありました。観光船はガラガラであったが出航前に団体客が着き、いっぱいになりました。船の下はガラスになっていて海中が見えるようになっています。餌付けされたウグイが沢山泳いでいます。この船の目的は水中にある柱状列石を見ることです。柱状列石を見て棧橋に戻る。11時ですが寒いので早めの昼食を食べます。味噌ラーメン。その後やることがないので丸駒温泉へ行きます。湖の湖畔にあり、ここから30分ぐらいである。丸駒温泉は知る人ぞ知る足元湧出湯の天然露天風呂でとても珍しい。湯の深さも、季節によって上下し、支笏湖の水位と同じです。入浴券を買いバスタオルを借りて大浴場へ行く。思ったより人が多い。ほとんど地元の人です。塩分を含んだ茶色の温泉でとても温まります。露天風呂からは湖を一望できます。しかし目的の温泉はここではないので脱衣場に戻り、足元湧出露天風呂への行き方が書いてある地図を見て。裸のまま脱衣カゴを持って廊下を進みます。すると目的の露天風呂がありました。岩で囲まれ木々が上を覆っています。湖とは岩で隔たれているだけです。下は小石で温度は37~38度ぐらいです。先客は一人だけです。水位は膝上10センチぐらいで、首まで浸かりじっとしていると波の音だけが聞こえます。背中から時々気泡が出てきて温泉が出ていることがわかります。1日入っていても飽きません。時間がないので30分ほどで諦めて出ます。ここからは見るところがないので新千歳空港を目指し、ガソリンを入れてレンタカーを返します。空港まで送迎してもらい、空港で時間を潰します。まずは回転寿司の「ハコタロー」へ行き、ホタテ、ツブ貝、ほっき貝、サバ、ニシン、ヤリイカを食べます。とても新鮮で美味しい。帰りには行列ができていました。ハスカップのジャムを買い、夕食の豚丼を「ドライブインいとう」で買う。三本コーヒーでアイスコーヒーを飲み17:05のJALで羽田へ。